

柏の景気情報（平成21年4月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成21年4月分）

○ 調査期間 : 平成21年4月16日 ~ 4月22日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	73	68.2%
建設	19	16	84.2%
製造	23	15	65.2%
卸・小売	43	27	62.8%
サービス	22	15	68.2%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成21年4月の調査結果のポイント】

《業況DIはわずかながら回復傾向》

○4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲64.3(前月水準▲68.4)となり、マイナス幅が△4.1ポイント縮小した。

前月水準と比べて、すべての業種においてマイナス幅が縮小しており、幅の大きい順に、建設業▲68.7(同▲78.5)、製造業▲66.6(同▲73.3)、サービス業▲66.6(同▲70.5)、卸小売業▲59.2(同▲60.0)である。

【建設業】では、「各企業の設備投資が停滞しているのが直接完工高減少に影響している。」(一般土木建築工事業)、「まだまだ景気は上向いてきません。」(一般土木建築工事業)、等、厳しい景況や業況についてのコメントがあげられた。

【製造業】では、「業界は依然と在庫圧縮をしており、いつ頃おさまるか見当がつかない。従業員の賃金は現状削減予定はないが、更に悪化するようであれば可能性はあり。」(その他の鉄鋼業)等、業界の現状を伝える声が寄せられた。

【卸小売業】では、「全体的に数量減・取扱い減の厳しい状況です。総じて消費減退は続いています。青果卸として、市場一体となった取引ができるよう、顧客からの要望や期待、情報提供などに迅速に対応し、鮮度ある青果販売に努力しているところ。」(食料・飲料卸売業)、「タスポ効果で売上客数とも対前年比でプラスで推移すると予想されるが、客単価の下落等があるので、7月以降は厳しくなるものと思われる。現在日用品等の商品も値下げしているの、これらの影響も懸念されている。」(その他の各種商品小売業)、「近年小刻みに原油価格が変動する。元売りはすぐにコスト転嫁をしてくる(周辺市況に注目)LPGもだいたい安定しほぼ横ばい。5月の為替次第では電気都市ガス共に、大幅値下げ予定の情報あり、少し利ザヤが稼げるかと期待したのもつかの間、LPガスも同様に小売価格の値下げ検討が必要になりそう。」(燃料小売業)等、多数のコメントが寄せられた。

【サービス業】では、「宿泊はビジネス利用が大幅減。インターネットからの予約増があったが、吸収できず。宴会は謝恩会など大型宴会の受注減。企業の会議展示会取り止め増。」(ホテル)、「春を迎えて忙しくなってきたが、薬品メーカーは薬品が売れないと言ってきている。」(獣医業)、などの声が寄せられた。

◎売上不振

「売上は減少しても経費はあまり変わらないので業況は厳しいです。打開策を打ち出す必要があります。」(板金・金物工事業)、「昨年末から売上利益の減少が続いています。」(管工事業)、「売上不振の上に、販売価格の下落が続き、収益状況を悪くしている。」(その他の各種商品小売業)、「週末の売上は上々であったが、平日における宴会やフリー客とも非常事態となっております。来月にメニュー見直し等を考えている。」(酒場・ビヤホール)等のコメントが多数寄せられた。

◎先行き不透明

「結果的には売上も前年度と同じ程度は確保できたが、先行きの見通しが見えない、つかめない。以前は3か月～6か月先の見通しは予想できたが、現時点では無理。」(電気工事業)、「納税時期のためか先の見通しがつかないようだ」(食堂・レストラン)等の声があった。

◎経済活性化施策への期待

「ETC割引・定額給付金等の経済活性化効果に期待。関係業者からは、週休3～4日になってきている声を聞く。」(その他の機械・同部分品製造業)、「景況感として軽々とは言えないが、3月度以下の悪化は無いのではないかとと思われる。定額給付金の支給や地域で発行される商品券も一定の効果が期待される。」(百貨店)など、厳しい世況の中での期待感を表すコメントもあった。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
11月	▲55.6	▲50.0	▲55.5	▲58.0	▲56.2
12月	▲63.6	▲50.0	▲68.7	▲62.5	▲70.5
H21年1月	▲65.3	▲80.0	▲66.6	▲56.6	▲66.6
2月	▲74.3	▲58.8	▲88.8	▲74.1	▲75.0
3月	▲68.4	▲78.5	▲73.3	▲60.0	▲70.5
4月	▲64.3	▲68.7	▲66.6	▲59.2	▲66.6
見通し	▲46.5	▲56.2	▲33.3	▲40.7	▲60.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成21年4月の業況についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲64.3(前月水準▲68.4)となり、マイナス幅が△4.1ポイント縮小した。

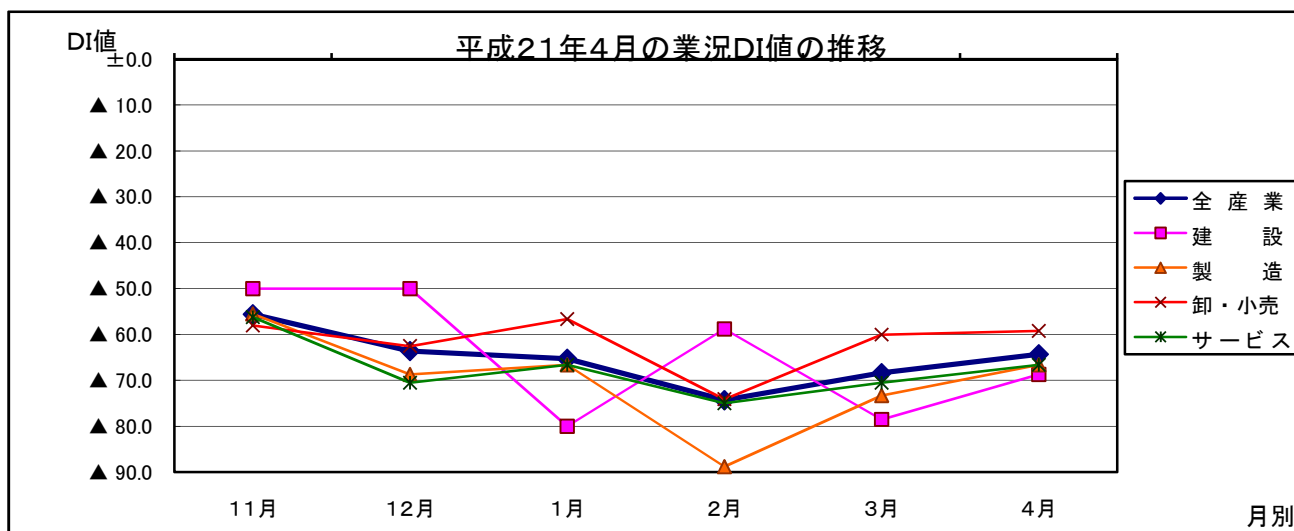
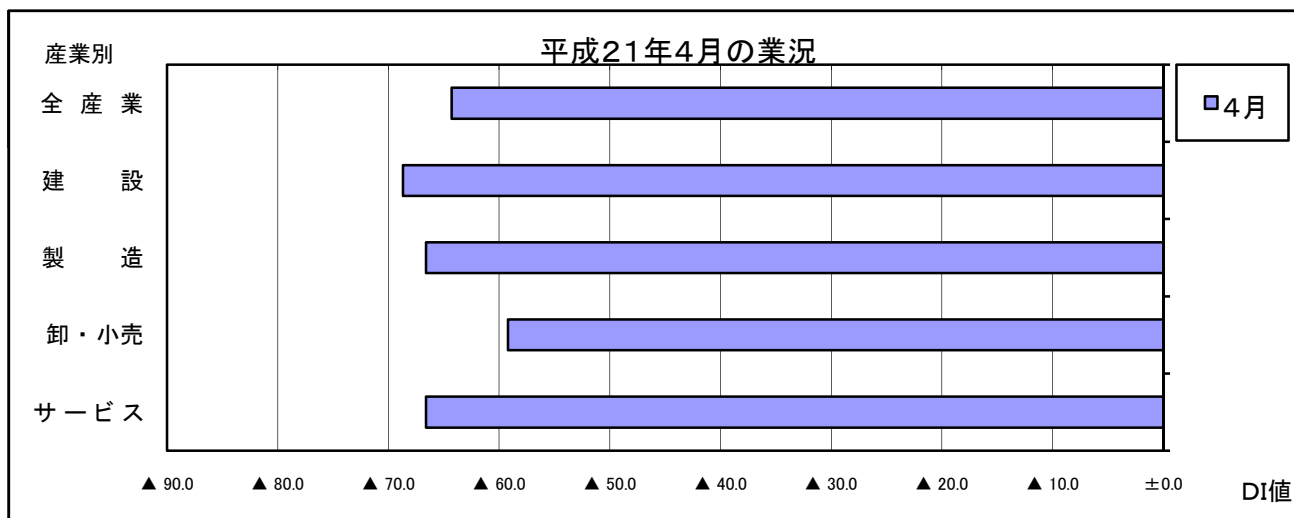
前月水準と比べて、すべての業種においてマイナス幅が縮小しており、幅の大きい順に、建設業▲68.7(同▲78.5)、製造業▲66.6(同▲73.3)、サービス業▲66.6(同▲70.5)、卸小売業▲59.2(同▲60.0)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲46.5(前月水準▲48.6)となり、マイナス幅が2.1△ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲33.3(同▲53.3)、サービス業▲60.0(同▲70.5)である。特に、製造業はマイナス幅が△20.0ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲56.2(同▲42.8)、卸小売業▲40.7(同▲36.6)である。

平成21年4月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成20年	12月	平成21年	2月	3月	4月	先行き見通し	
	11月		1月				5月~7月	4月~6月
全産業	▲55.6	▲63.6	▲65.3	▲74.3	▲68.4	▲64.3	▲46.5 (▲48.6)	
建設	▲50.0	▲50.0	▲80.0	▲58.8	▲78.5	▲68.7	▲56.2 (▲42.8)	
製造	▲55.5	▲68.7	▲66.6	▲88.8	▲73.3	▲66.6	▲33.3 (▲53.3)	
卸・小売	▲58.0	▲62.5	▲56.6	▲74.1	▲60.0	▲59.2	▲40.7 (▲36.6)	
サービス	▲56.2	▲70.5	▲66.6	▲75.0	▲70.5	▲66.6	▲60.0 (▲70.5)	



【平成21年4月の売上についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲49.3(前月水準▲56.5)となり、マイナス幅が△7.2ポイント縮小した。

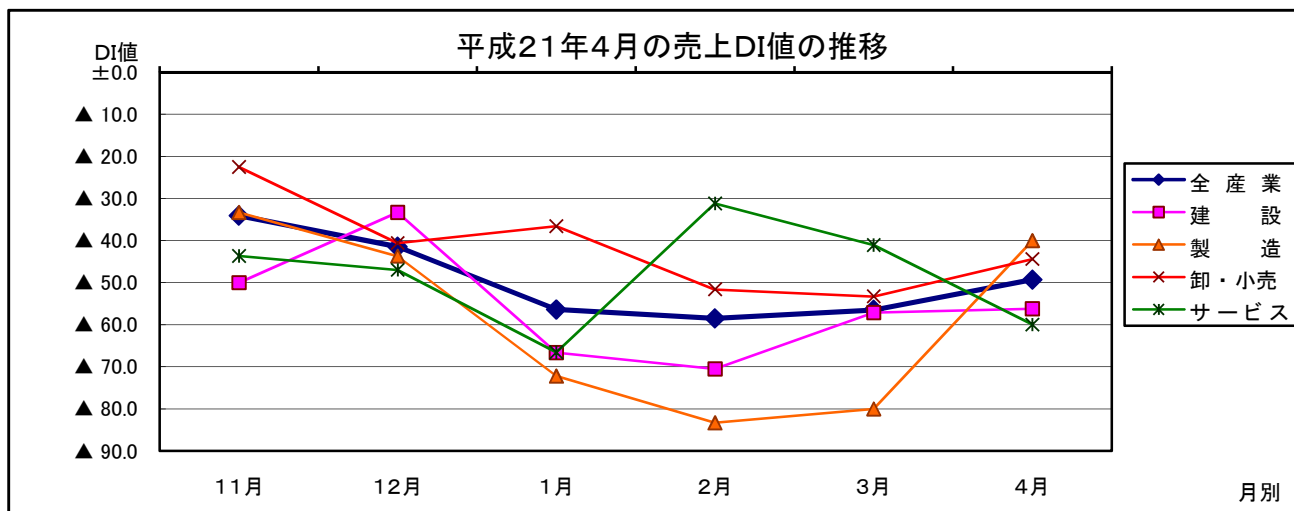
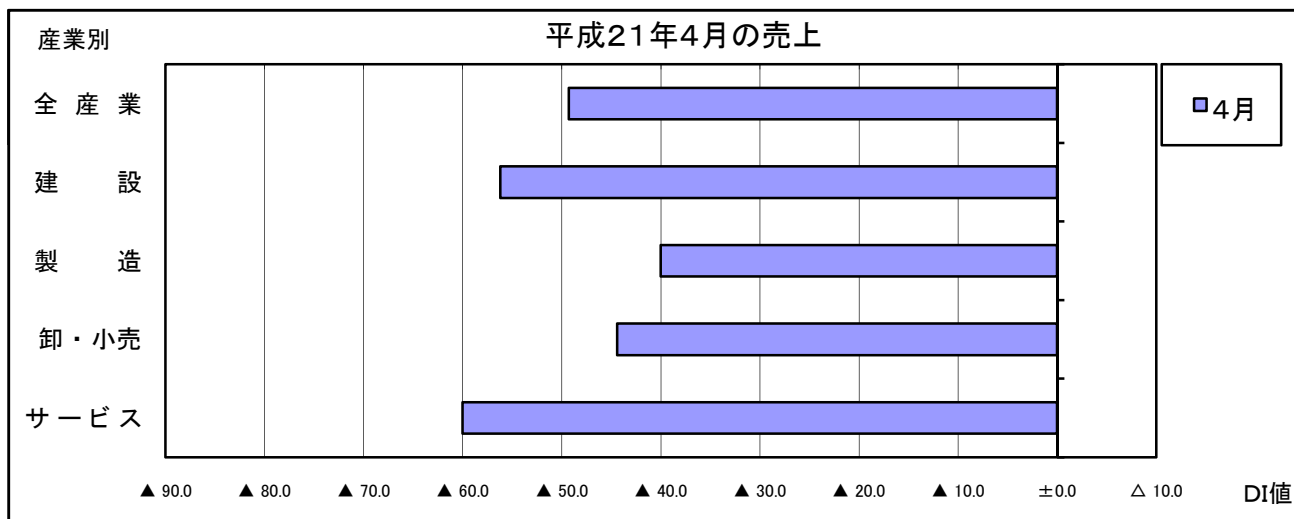
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲40.0(同▲80.0)、卸小売業▲44.4(同▲53.3)、建設業▲56.2(同▲57.1)である。特に、製造業はマイナス幅が△40.0ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲60.0(同▲41.1)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲49.3(前月水準▲42.1)となり、マイナス幅が▲7.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲50.0(同▲57.1)、製造業▲33.3(同▲40.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲60.0(同▲41.1)、卸小売業▲51.8(同▲36.6)である。

平成21年4月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 11月	12月	平成21年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月～7月(4月～6月)
全産業	▲34.1	▲41.5	▲56.4	▲58.5	▲56.5	▲49.3	▲49.3(▲42.1)
建設	▲50.0	▲33.3	▲66.6	▲70.5	▲57.1	▲56.2	▲50.0(▲57.1)
製造	▲33.3	▲43.7	▲72.2	▲83.3	▲80.0	▲40.0	▲33.3(▲40.0)
卸・小売	▲22.5	▲40.6	▲36.6	▲51.6	▲53.3	▲44.4	▲51.8(▲36.6)
サービス	▲43.7	▲47.0	▲66.6	▲31.2	▲41.1	▲60.0	▲60.0(▲41.1)



【平成21年4月の採算についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲57.5(前月水準▲63.1)となり、マイナス幅が△5.6ポイント縮小した。

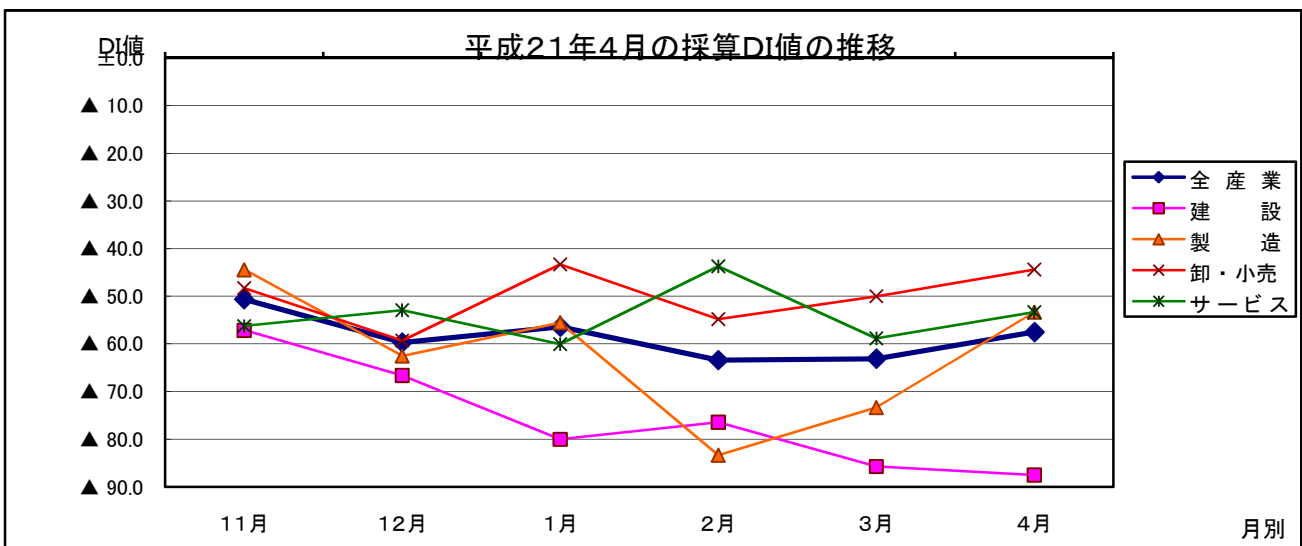
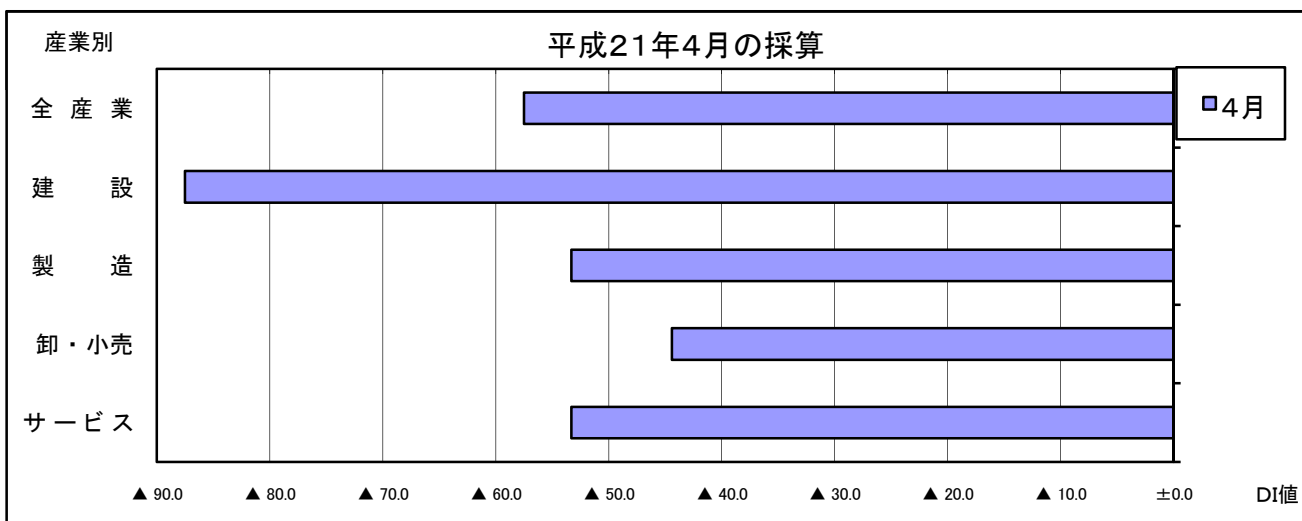
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲53.3(同▲73.3)、卸小売業▲44.4(同▲50.0)、サービス業▲53.3(同▲58.8)である。特に、製造業はマイナス幅が△20.0ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲87.5(同▲85.7)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲53.4(前月水準▲36.8)となり、マイナス幅が▲16.6ポイント拡大する見通しである。

前月水準と比べて、すべての業種において、マイナス幅が拡大する見通しであり、幅の大きい順に、サービス業▲53.3(同▲29.4)、建設業▲68.7(同▲50.0)、卸小売業▲51.8(同▲36.6)、製造業▲40.0(同▲33.3)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲23.9ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成21年4月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 11月	12月	平成21年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲50.6	▲59.7	▲56.4	▲63.4	▲63.1	▲57.5	▲53.4(▲36.8)
建設	▲57.1	▲66.6	▲80.0	▲76.4	▲85.7	▲87.5	▲68.7(▲50.0)
製造	▲44.4	▲62.5	▲55.5	▲83.3	▲73.3	▲53.3	▲40.0(▲33.3)
卸・小売	▲48.3	▲59.3	▲43.3	▲54.8	▲50.0	▲44.4	▲51.8(▲36.6)
サービス	▲56.2	▲52.9	▲60.0	▲43.7	▲58.8	▲53.3	▲53.3(▲29.4)



【平成21年4月の仕入単価についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.6(前月水準▲2.6)となり、マイナス幅が▲11.0ポイント拡大した。

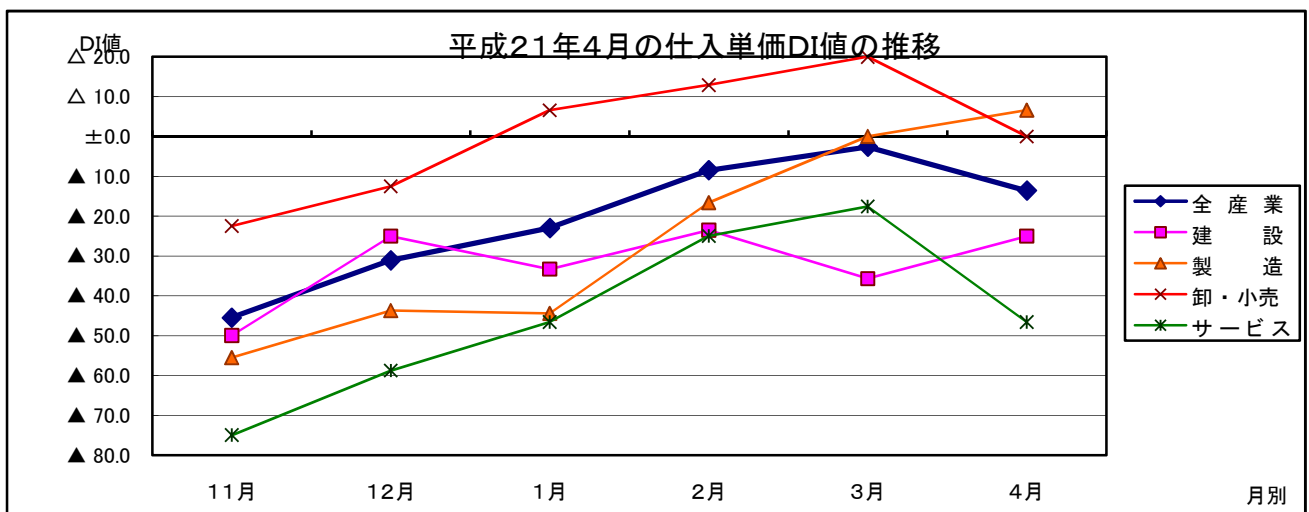
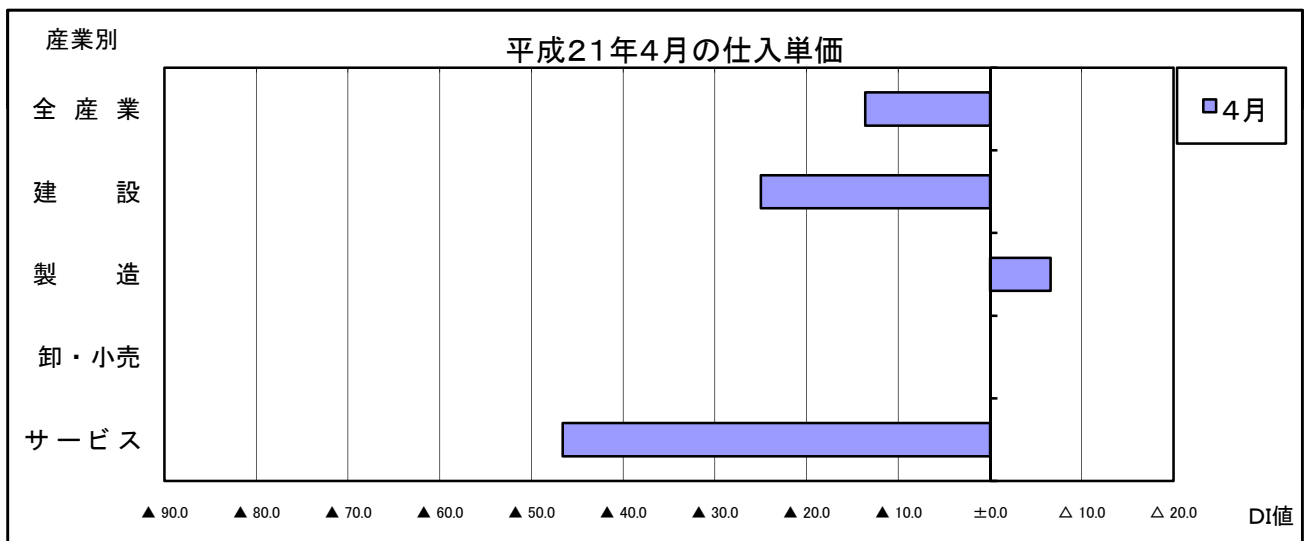
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△6.6(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲25.0(同▲35.7)である。プラス幅が縮小した業種は、卸小売業±0.0(同△20.0)であり、プラス幅が▲20.0ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲46.6(同▲17.6)であり、マイナス幅が▲29.0ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4.1(前月水準▲5.2)となり、マイナス幅が△1.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業△7.4(同△6.6)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲12.5(同▲21.4)である。変らない見通しの業種は、製造業△20.0(同△20.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲40.0(同▲35.2)である。

平成21年4月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 11月	12月	平成21年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲45.5	▲31.1	▲23.0	▲8.5	▲2.6	▲13.6	▲4.1(▲5.2)
建設	▲50.0	▲25.0	▲33.3	▲23.5	▲35.7	▲25.0	▲12.5(▲21.4)
製造	▲55.5	▲43.7	▲44.4	▲16.6	±0.0	△6.6	△20.0(△20.0)
卸・小売	▲22.5	▲12.5	△6.6	△12.9	△20.0	±0.0	△7.4(△6.6)
サービス	▲75.0	▲58.8	▲46.6	▲25.0	▲17.6	▲46.6	▲40.0(▲35.2)



【平成21年4月の従業員についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲8.2(前月水準▲7.8)となり、マイナス幅が▲0.4ポイント拡大した。

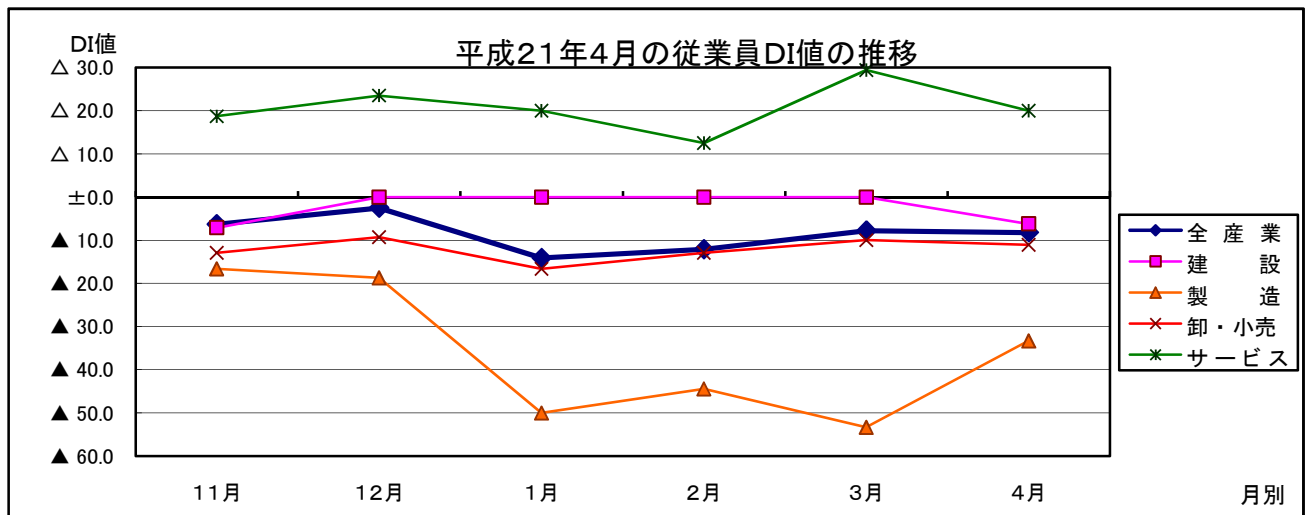
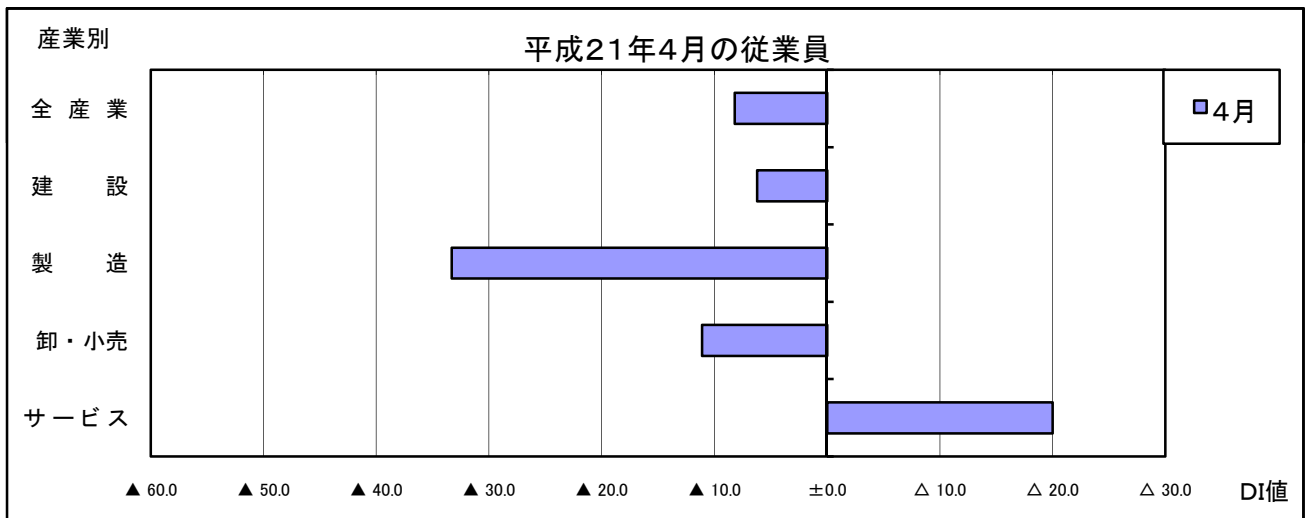
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲33.3(同▲53.3)であり、マイナス幅が△20.0ポイントと大幅に縮小した。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△20.0(同△29.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲6.2(同±0.0)、卸小売業▲11.1(同▲10.0)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.3(前月水準▲6.5)となり、マイナス幅が▲5.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲40.0(同▲46.6)、建設業▲6.2(同▲7.1)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△20.0(同△35.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲18.5(同▲10.0)である。

平成21年4月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 11月	12月	平成21年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲6.3	▲2.5	▲14.1	▲12.1	▲7.8	▲8.2	▲12.3(▲6.5)
建設	▲7.1	±0.0	±0.0	±0.0	±0.0	▲6.2	▲6.2(▲7.1)
製造	▲16.6	▲18.7	▲50.0	▲44.4	▲53.3	▲33.3	▲40.0(▲46.6)
卸・小売	▲12.9	▲9.3	▲16.6	▲12.9	▲10.0	▲11.1	▲18.5(▲10.0)
サービス	△18.7	△23.5	△20.0	△12.5	△29.4	△20.0	△20.0(△35.2)



【平成21年4月の資金繰りについての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲36.9(前月水準▲46.0)となり、マイナス幅が△9.1ポイント縮小した。

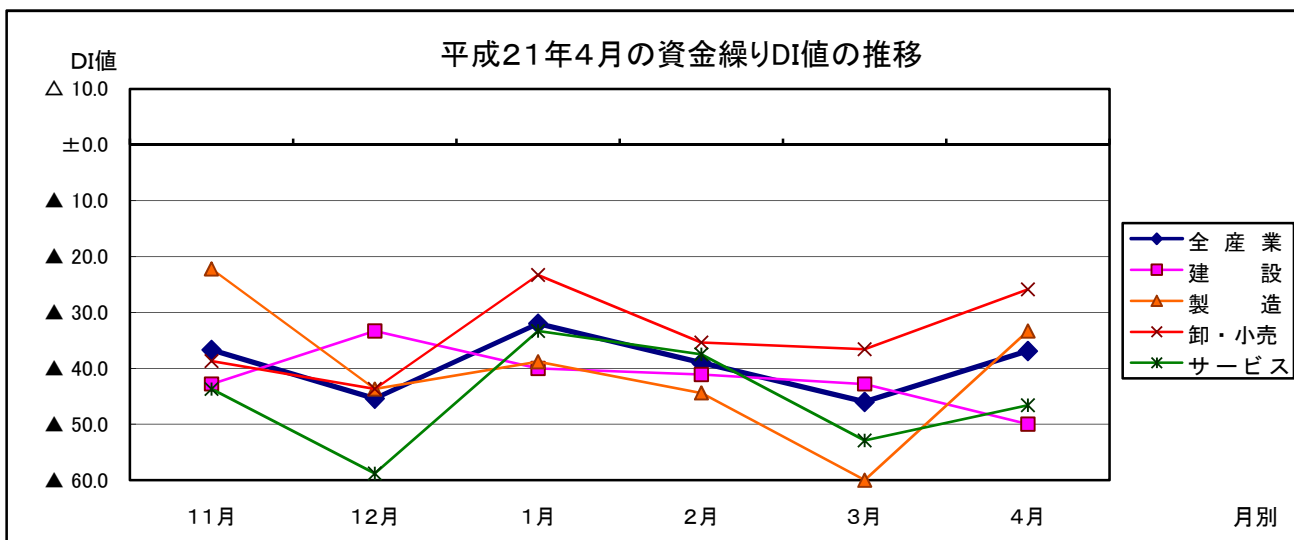
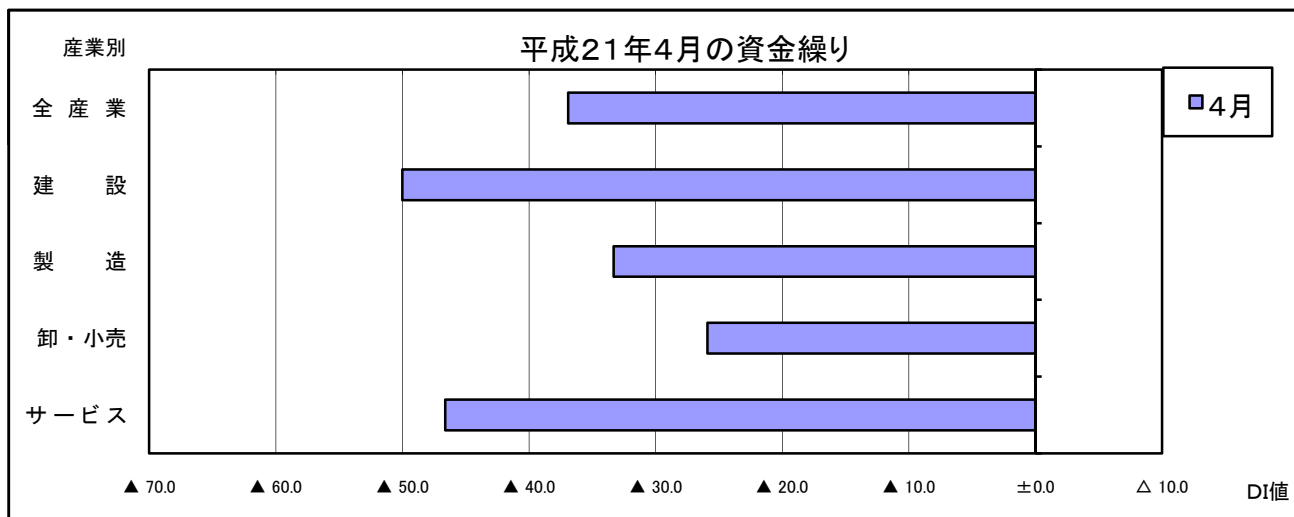
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲33.3(同▲60.0)、卸小売業▲25.9(同▲36.6)、サービス業▲46.6(同▲52.9)であり、特に、製造業はマイナス幅が△26.7ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲50.0(同▲42.8)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲27.3(前月水準▲35.3)となり、マイナス幅が△8.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲6.6(同▲33.3)、サービス業▲40.0(同▲52.9)であり、特に、製造業はマイナス幅が△26.7ポイントと大幅に縮小する見通しである。変らない見通しの業種は、卸小売業▲33.3(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲25.0(同▲21.4)である。

平成21年4月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成20年 11月	12月	平成21年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月～7月(4月～6月)
全産業	▲36.7	▲45.4	▲32.0	▲39.0	▲46.0	▲36.9	▲27.3(▲35.5)
建設	▲42.8	▲33.3	▲40.0	▲41.1	▲42.8	▲50.0	▲25.0(▲21.4)
製造	▲22.2	▲43.7	▲38.8	▲44.4	▲60.0	▲33.3	▲6.6(▲33.3)
卸・小売	▲38.7	▲43.7	▲23.3	▲35.4	▲36.6	▲25.9	▲33.3(▲33.3)
サービス	▲43.7	▲58.8	▲33.3	▲37.5	▲52.9	▲46.6	▲40.0(▲52.9)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 49.3	▲ 49.3	▲ 57.5	▲ 53.4	▲ 13.6	▲ 4.1	▲ 8.2	▲ 12.3
建設	▲ 56.2	▲ 50.0	▲ 87.5	▲ 68.7	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 6.2	▲ 6.2
製造	▲ 40.0	▲ 33.3	▲ 53.3	▲ 40.0	△ 6.6	△ 20.0	▲ 33.3	▲ 40.0
卸・小売	▲ 44.4	▲ 51.8	▲ 44.4	▲ 51.8	±0.0	△ 7.4	▲ 11.1	▲ 18.5
サービス	▲ 60.0	▲ 60.0	▲ 53.3	▲ 53.3	▲ 46.6	▲ 40.0	△ 20.0	△ 20.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 64.3	▲ 46.5	▲ 36.9	▲ 27.3
建設	▲ 68.7	▲ 56.2	▲ 50.0	▲ 25.0
製造	▲ 66.6	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 6.6
卸・小売	▲ 59.2	▲ 40.7	▲ 25.9	▲ 33.3
サービス	▲ 66.6	▲ 60.0	▲ 46.6	▲ 40.0

【平成21年4月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	各企業の設備投資が停滞しているのが直接完工高減少に影響している。	・設備投資停滞	一般土木建築工事業
	まだまだ景気は上向いてきません。	・景気低迷	一般土木建築工事業
	売上は減少しても経費はあまり変わらないので業況は厳しいです。打開策を打ち出す必要があります。	・売上減少 ・固定費負担 ・厳しい業況	板金・金物工事業
	昨年末から売上利益の減少が続いています。	・売上減少	管工事業(さく井を除く)
	結果的には売上も前年度と同じ程度は確保できたが、先行きの見通しが見えない、つかめない。以前は3か月～6か月先の見通しは予想できたが、現時点では無理。	・先行き不透明 ・売上高確保	電気工事業
工業	業界は依然と在庫圧縮をしており、いつ頃おさまるか見当がつかない。従業員の賃金は現状削減予定はないが、更に悪化するようであれば可能性はあり。	・在庫圧縮	その他の鉄鋼業
	ETC割引・定額給付金等の経済活性化効果に期待。関係業者からは、週休3～4日になってきている声を聞く。	・ETC利用割引 ・定額給付金	その他の機械・同部分品製造業
卸小売	景況感として軽々とは言えないが、3月度以下の悪化は無いのではないかと思われる。当社では当月大型の物産展が好調であり、前年を大きく上回っている。店全体ではまだまだ前年を切っているものの、夏ものの動きが早いと予想されており、定額給付金の支給や地域で発行される商品券も一定の効果期待される。	・景況感下げ止まり ・催事好調 ・夏もの商戦 ・定額給付金 ・地域商品券	百貨店
	春野菜の出回りが多くなる時期で、人参キャベツきゅうりの入荷増となっているが、他の野菜にはばらつきがあり、全体的に数量減・取扱減の厳しい状況です。柑橘類は増量あるものの単価安。総じて消費減退は続いています。青果卸として、市場一体となった取引ができるよう、顧客からの要望や期待、情報提供などに迅速に対応し、鮮度ある青果販売に努力しているところです。	・春もの野菜 ・取扱数減 ・厳しい業況 ・消費低迷 ・顧客重視 ・経営努力	食料・飲料卸売業
	CVSたばこ有り店では6月まではタスポ効果で売上客数とも対前年比でプラスで推移すると予想されるが、客単価の下落等があるので、7月以降は厳しくなるものと思われる。現在日用品等の商品も値下げしているため、これらの影響も懸念されている。	・タスポ効果 ・客単価下減 ・日用品値下げ	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	消費者の財布のひもが固く慎重であり、必要品以外は購買を控える傾向が顕著である。前年比売上利益とも5～6%減。	・購買意欲減退 ・利益減少	その他の飲食料品小売業
	近年小刻みに原油価格が変動する。元売りはすぐにコスト転嫁をしてくる(周辺市況に注目)LPGもだいぶ安定しほぼ横ばい。5月の為替次第では電気都市ガス共に、大幅値下げ予定の情報あり、少しリザヤが稼げるかと期待したのもつかの間、LPガスも同様に小売価格の値下げ検討が必要になりそう。	・原油価格変動 ・コスト転嫁 ・為替推移 ・LPガス値下げ	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	同業店舗が近隣に開店。影響が心配。	・新規開店の影響	書籍・文房具小売業
	売上不振の上に、販売価格の下落が続き、収益状況を悪くしている。	・売上不振 ・販売価格下落 ・収益悪化	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	納税時期のためか先の見通しがつかないようだ	・先行き不透明	食堂・レストラン
サービス	宿泊はビジネス利用が大幅減。インターネットからの予約増があったが、吸収できず。宴会は謝恩会など大型宴会の受注減。企業の会議展示会取り止め増。	・宿泊大幅減 ・宴会減 ・キャンセル増	ホテル
	週末の売上は上々であったが、平日における宴会やフリー客とも非常事態となっております。来月にメニュー見直し等を考えている。	・平日売上悪化 ・メニュー見直し	酒場・ビヤホール
	春を迎えて忙しくなってきたが、薬品メーカーは薬品が売れないと言ってきている。	・多忙時期	獣医業

◎売上不振

- ・ 売上は減少しても経費はあまり変わらないので業況は厳しいです。打開策を打ち出す必要があります。 (板金・金物工事業)
- ・ 昨年末から売上利益の減少が続いています。 (管工事業)
消費者の財布のひもが固く慎重であり、必要品以外は購買を控える傾向が顕著である。前年比売上利益とも5～6%減。 (その他の飲食料品小売業)
- ・ 売上不振の上に、販売価格の下落が続き、収益状況を悪くしている。 (その他の各種商品小売業)
- ・ 週末の売上は上々であったが、平日における宴会やフリー客とも非常事態となっております。来月にメニュー見直し等を考えている。 (酒場・ビヤホール)

◎先行き不透明

- ・ 結果的には売上も前年度と同じ程度は確保できたが、先行きの見通しが見えない、つかめない。以前は3か月～6か月先の見通しは予想できたが、現時点では無理。 (電気工事業)
- ・ 納税時期のためか先の見通しがつかないようだ (食堂・レストラン)

◎経済活性化施策への期待

- ・ ETC割引・定額給付金等の経済活性化効果に期待。関係業者からは、週休3～4日になってきている声を聞く。 (その他の機械・同部分品製造業)
- ・ 景況感として軽々とは言えないが、3月度以下の悪化は無いのではないかと思われる。定額給付金の支給や地域で発行される商品券も一定の効果が期待される。 (百貨店)

平成21年4月のCCI LOBOとの比較


- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲64.3に対し、「CCI-LOBO」が▲70.4で、柏の方がマイナス幅が6.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で良く、卸小売業は10ポイント以上良い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲49.3に対し、「CCI-LOBO」が▲66.2で、柏の方がマイナス幅が16.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で良く、建設業・製造業・卸小売業は10ポイント以上良い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲57.5に対し、「CCI-LOBO」が▲66.3で、柏の方がマイナス幅が8.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、製造業・卸小売業10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業で10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲13.6に対し、「CCI-LOBO」が▲15.4で、柏の方がマイナス幅が1.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲8.2に対し、「CCI-LOBO」が▲21.9で、柏の方がマイナス幅が13.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業・サービス業で、建設業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲36.9に対し、「CCI-LOBO」が▲46.9で、柏の方がマイナス幅が10.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、製造業・卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種はサービス業。



平成21年4月の木の景気天気図










木の景気情報と全国CCI LOBOとの比較








景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50 > DI 25	まあまあ 25 > DI 0	不振 0 > DI 25	極めて不振 25 > DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 64.3	 68.7	 66.6	 59.2	 66.6
CCI LOBO	 70.4	 70.9	 74.4	 70.9	 66.9

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 49.3	 56.2	 40.0	 44.4	 60.0
CCI LOBO	 66.2	 68.2	 70.3	 65.9	 63.2

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 57.5	 87.5	 53.3	 44.4	 53.3
CCI LOBO	 66.3	 70.5	 73.6	 64.4	 61.9

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 13.6	 25.0	 6.6	 ±0.0	 46.6
CCI LOBO	 15.4	 19.7	 15.6	 11.4	 15.5

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 8.2	 6.2	 33.3	 11.1	 20.0
CCI LOBO	 21.9	 34.5	 33.0	 11.8	 13.6

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 36.9	 50.0	 33.3	 25.9	 46.6
CCI LOBO	 46.9	 56.4	 57.3	 39.2	 40.7

は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(4月の調査結果のポイント)

調査期間：平成21年4月16日～22日

調査対象：柏市内 107 事業所及び組合にヒアリング、回答数 73

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
11月	▲55.6	▲50.0	▲55.5	▲58.0	▲56.2
12月	▲63.6	▲50.0	▲68.7	▲62.5	▲70.5
1月	▲65.3	▲80.0	▲66.6	▲56.6	▲66.6
2月	▲74.3	▲58.8	▲88.8	▲74.1	▲75.0
3月	▲68.4	▲78.5	▲73.3	▲60.0	▲70.5
4月	▲64.3	▲68.7	▲66.6	▲59.2	▲66.6
見通し	▲46.5	▲56.2	▲33.3	▲40.7	▲60.0

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

柏市の業況

【建設業】では、「各企業の設備投資が停滞しているのが直接元凶減少に影響している。」(一般土木建築事業)、「まだまだ景気は上向いてきません。」(一般土木建築事業)等、厳しい景況や業況についてのコメントがあげられた。

【製造業】では、「業界は依然と在庫圧縮をしており、いつ頃おさまるか見当がつかない。従業員の賃金は、現状削減予定はないが、更に悪化するようであれば可能性はあり。」(その他の鉄鋼業)等、業界の現状を伝える声が寄せられた。

4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース以下同じ)は、64.3(前月水準 68.4)となり、マイナス幅が4.1ポイント縮小した。前月水準と比べて、すべての業種においてマイナス幅が縮小しており、幅の大きい順に、建設業 68.7(同 78.5)、製造業 66.6(同 73.3)、サービス業 66.6(同 70.5)、卸小売業 59.2(同 60.0)である。

【卸小売業】では、「全体的に数量減・取扱減の厳しい状況です。総じて消費減退は続いています。青果卸として、市場一体となった取引ができるよう、顧客からの要望や期待、情報提供などに迅速に対応し、鮮度ある青果販売に努力しているところ。」(食料・飲料卸売業)、「タスポ効果で売上客数とも対前年比プラスで推移すると予想されるが、客単価の下落等があるので、7月以降は厳しくなるものと思われる。現在日用品等の商品も値下げしている。これらの影響も懸念されている。」(その他の各種商品小売業)、「近年小刻みに原油価格が変動する。元売りはすぐに

コスト転嫁をしてくる(周辺市況に注目) LPGもだいたい安定しは横ばい。5月の為替次第では電気都市ガス共に、大幅値下げ予定の情報あり、少し利ザヤが稼げるかと期待したのもつかの間、LPGも同様に小売価格の値下げ検討が必要になりそう。」(燃料小売業)等、多数のコメントが寄せられた。

【サービス業】では、「宿泊はビジネス利用が大幅減。インターネットからの予約増があったが、吸収できず。宴会は謝恩会など大型宴会の受注減。企業の会議展示会取り止め増。」(ホテル)、「春を迎えて忙しくなってきたが、薬品メーカーは薬品が売れないと言ってきている。」(獣医療業)などの声が寄せられた。

4月の景気キーワード

売上不振

多くの業種から、「売上は減少しても経費はあまり変わらないので業況は厳しいです。打撃を打ち出す必要がありません。」(板金・金物事業)、「昨年未から売上利益の減少が続いています。」(管事業)、「売上不振の上、販売価格の下落が続き、収益状況を悪くしている。」(その他の各種商品小売業)、「週末の売上は上々であったが、平日における宴会やフリ

「客とも非常事態となっております。来月にメニュー見直し等を考えている。」(酒場・ビヤホール)等のコメントが多数寄せられた。

先行き不透明

「結果的には売上も前年度と同じ程度は確保できたが、先行きの見通しが見えない、つかめない。以前は3か月6か月先の見通しは予想できたが、現時点では無理。」(電気事業)、「納税時期のためか先の見通しがつかないようだ。」(食堂・レストラン)等の声があった。

経済活性化施策への期待

「ETC割引・定額給付金等の経済活性化効果に期待。関係業者からは、週休3〜4日になってきている声を聞く。」(その他の機械・同部分品製造業)、「景況感として軽々とは言えないが、3月度以下の悪化は無いのではないかとと思われる。定額給付金の支給や地域で発行される商品券も一定の効果も期待される。」(百貨店)など、厳しい世況の中での期待感を表すコメントもあった。

CCI LOBOO比較

全産業合計では、「柏の景気」が64.3に対し

「CCI LOBOO」が70.4で、柏の方がマイナス幅が6.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で良く、卸小売業は10ポイント以上良い。

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(4月速報)

調査期間：平成21年4月16日～22日

調査対象：全国の406商工会議所が2584業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、依然厳しい水準ながら2カ月連続でマイナス幅が縮小

4月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、70.4となり、依然として厳しい状況が続いているものの、前月に比べ+2.4ポイントと2カ月連続でマイナス幅は縮小している。

産業別にみると、DI値のマイナス幅は、すべての業種で依然厳しい水準ながら、製造業を除く、すべての業種でマイナス幅は縮小した。

景気に関する声、当面する問題としては、世界的な景気悪化の影響により、製造業を中心に、受注や売上の減少、雇用の過剰感など引き続き厳しい状況を訴える声が寄せられている。他方、高速道路料金の値下げや定額給付金などの効果、期待感も出てきている。

【建設業】「国の追加経済対策に伴って公共事業の追加に期待しているが、厳しい状況に変化は見られない」(一般事業)、「受注が大幅に減少したため従業員の削減を実施」(建設工事事業)、「公共事業の激減など

により受注が減少している」(管工事業)

【製造業】「今後も売上の減少に加え、採算面でも厳しい状況を予想している」(金属加工機械製造業)、「従業員は慢性的に過剰であり、一部雇用調整を行っている」(工業用プラスチック製造業)、「同業他社では不況で倒産・廃業が相次いでいる」(その他の機械製造業)

【卸売業】「個人消費の低迷で大幅に売上が減少」(家具・建具等卸売業)、「人員削減、賃金カットなど経費圧縮を実施」(衣服・日用品卸売業)、「今後の一段の悪化は遠のいたように思われるが、賞与の見込みは全く立っていない」(農畜産水産物卸売業)

【小売業】「依然として厳しい売上が続いているが、定額給付金に期待」(百貨店)、「中小企業緊急雇用安定助成金を利用し、雇用を維持」(その他の小売業)、「郊外の大型郊外店舗の閉店が増加」(商店街)

【サービス業】「高速道路料金値下げにより土日の売上げが増加」(旅館)、「企業の経費削減による派遣切りで、業況が悪化」(他事業サービス業)、「自動車の販売不振が続く、低価格

競争が激化(自動車整備業) 四月のキーワード

受注の大幅な減少

世界景気の悪化に伴って受注の大幅な減少や売上の悪化など、厳しい業況を訴える声が寄せられている。建設業からは、「公共事業の削減などにより、景気の状態は厳しい」(十別一般事業)、「住宅建設が前年度と比べ建築確認件数が減少し厳しい状況」(帯広・建設工事)、「製造業からは、全体的に物の動きが悪く、受注も非常に少ない」(酒田・織物外衣製造業)、「景況は最悪で前年比10%しか受注がない」(さいたま・プリキ缶等製造業)、「発電プラントおよび造船・製鉄業において工事の延期もしくは中止があり、全体の工事量が減少」(伊万里・産業用電気機械製造業)などの声が寄せられている。

雇用情勢のさらなる悪化

売上の低迷を始めとする業況悪化の影響などから、引き続き倒産・廃業に加え、雇用調整や賃金削減の実施に関する声が多い。建設業からは、「年末工事が終了後、新規受注がなく人員も過剰気味」(新潟・電気工事)、「製造業からは、急速な生産調整など減産や操業時間の減少が見られる。一部には

雇用調整を行う企業が出ている」(新居浜・一般産業用機械製造業)、「卸売業からは、県外からのハローワークから男性で40歳以上の求職の応募が続いている。パート、アルバイトの応募は少ない」(中野・農畜産水産物卸売業)、「サービス業からは、従業員を雇いたくても給料の支払い余力がない」(八女・商店街)などの声が寄せられている。

先行きに対する期待感

高速道路料金値下げや定額給付金など、政府が打ち出している施策による景気回復への期待感も出てきた。製造業からは、「売上げが続く中、『定額給付金で雪を入れ替えよう』というキャンペーンポスターを作成」(倉敷・農製造業)、「小売業からは、『中心商店街を舞台にサンバカーニバルを開催、高速道路料金値下げによる来街者の増加を期待」(静岡・商店街)、「定額給付金を活用した商品券が発行による商店への来訪者増を期待」(蒲郡・商店街)、「サービス業からは、『定額給付金を利用したプランが当たりに』(米沢・旅館)などの声がある。一方で、『高速道路料金値下げによる影響で土日の来客数が前年比で減少』(水戸・百貨店)といった声もあった。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
11月	▲66.7	▲70.0	▲68.3	▲67.6	▲64.8	▲64.6
12月	▲70.2	▲74.2	▲72.7	▲67.6	▲69.2	▲67.3
1月	▲71.3	▲73.2	▲72.5	▲71.6	▲70.6	▲69.6
2月	▲73.4	▲75.8	▲75.6	▲71.1	▲71.5	▲72.6
3月	▲72.8	▲72.1	▲73.5	▲70.5	▲75.5	▲70.2
4月	▲70.4	▲70.9	▲74.4	▲66.7	▲70.9	▲66.9
見通し	▲60.3	▲65.0	▲60.7	▲53.6	▲63.4	▲56.1

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI